

MC-909 機能追加のお知らせ

MC-909 は、Ver1.10 より新しい機能が追加になりました。
これに伴い、「MC-909 取扱説明書」の内容を以下のように追加・
変更させていただきます。

バージョン確認画面の追加

システム・メニューの [F6 (System Info)] の画面に、内蔵プログラムのバージョン表示 ([F4 (Version)]) を追加しました。

1. いずれかのモードのトップ画面で [MENU] を押します。
2. [CURSOR (上 / 下)] で「System」を選びます。
3. [ENTER] を押します。
4. [F6 (System Info)] を押します。
5. [F4 (Version)] を押します。
内蔵プログラムのバージョンが表示されます。

電源投入時に選ばれるパターンの選択

電源をオンにした時、最初に選ばれるパターンを設定できるようにしました。

- P.126 「シーケンサー / MIDI」の表
[F2 (Song)] を [F2 (Song/Pattern)] に変更、以下のパラメーターを追加

パラメーター	設定値	説明
Startup Ptn Mode	LAST WRITTEN, USER DEFINABLE	電源投入時のパターンの選ばれた LAST WRITTEN : 前回の電源オフ直前に WRITE 操作を行ったパターンが選ばれます。 USER DEFINABLE : 以下のパラメーターで指定したパターンが選ばれます。
Startup Ptn Bank	Preset, User, Card	電源投入時に選ばれるパターン
Startup Ptn Number	001 ~ *** バンクによって異なります。	

メトロノーム音の出力先の選択

メトロノーム音の出力先を選べるようにしました。

- P.23 右段「メトロノーム (クリック) のオン / オフ」に追加
1. いずれかのモードのトップ画面、またはステップ・レコーディング以外のレコーディング画面で [F6 (BPM/Click)] を押して、BPM ウィンドウを表示させます。
 2. [CURSOR (上 / 下)] を押してカーソルを「Output Asgn」に合わせます。
 3. [VALUE] または [INC/DEC] で、出力先を選びます。

MIX	MIX OUTPUT ジャックとヘッドホンから出力します。
DIR1	DIRECT 1 OUTPUT ジャックから出力します。
DIR2	DIRECT 2 OUTPUT ジャックから出力します。

デフォルト・ミュート

パート・ミュートの状態を、パターンに記憶されている設定に瞬時に戻せるようにしました。

- P.24 「パートのミュート (消音)」に追加
[SHIFT] を押しながら [PART] (SELECT/MUTE) を押すと、パート・ミュートの状態が、パターンごとに記憶されている設定に戻ります。

RPS のリアルタイム・モディファイ

パネル上のつまみやスライダーを使って、RPS (P.26) で再生中のフレーズの音色に変化をつけることができました。

1. [RPS] を押して、ランプを点灯させます。
2. ベロシティ・パッドを押さへ、フレーズを再生します。
3. パッドを押さえた状態で以下のつまみやスライダーを操作すると、フレーズの音色が変化します。
PITCH : FINE/COARSE TUNE、ENV DEPTH/A/D
FILTER : CUTOFF、RESONANCE、ENV DEPTH/A/D/S/R
AMP : LEVEL、ENV DEPTH/A/D/S/R
LFO1 : PITCH DEPTH、FILTER DEPTH、AMP DEPTH、PAN DEPTH、RATE、WAVEFORM

最後に押さえたパッドに割り当てられているフレーズの音色に効果がかかります。

パッドから指を離すと、カレント・パートの音色が変化ようになります。[HOLD] をオンにしてフレーズを再生させていても同様です。

MATRIX CONTROL 1、RANDOM MODIFY、FAT を操作すると、常にカレント・パートの音色が変化します。

リアルタイム・レコーディング時の録音方法選択

リアルタイム・レコーディング時に、演奏データを追加するか置き換えるかを選べるようにしました。

- P.35 右段「リアルタイム・レコーディング」の表に追加

パラメーター	設定値	説明
Rec Mode	MIX, REPLACE	MIX : 既にレコーディングされている演奏データに追加してレコーディングします。 REPLACE : 既にレコーディングされている演奏データを消去しながらレコーディングします。

パターン・エディットの追加機能

エディットするパートの選択

パターン・エディット時、エディット内容を選んでからでも、パート・ボタンを押すことでエディット対象のパートを選べるようになりました。

リズム・セットの分割（エクストラクト・ア・リズム・インストゥルメント）

指定したパートの特定のノート・ナンバーのデータを抽出し、他のパートに移動する機能を追加しました。

- 1. 「パターン・エディットの基本操作」(P.41) の手順 5 で、
[SHIFT] + [F1 (Extract Rhythm)] を押します。
サブ・ウィンドウが表示されます。
- 2. 移動元のパート (Src Part) と、移動させたいノート・ナンバー (Extract Note) を選びます。
- 3. [F6 (Select)] を押します。
- 4. 移動先のパート (Dest Part) を選びます。
- 5. [F6 (Execute)] を押します。
選んだノート・ナンバーのデータがパート間で移動します。
移動元のパートに Extract Note で指定したノート・ナンバーのデータが無い場合、「Cannot Extract!」と表示されます。
移動先のパートに演奏データが無い場合、移動元パートのセットアップ・パラメーター (P.24) がコピーされます。
移動先のパートに演奏データが有る場合、ノート情報だけが移動します。そのため、移動先のパートに選ばれているパッチの音色で音が鳴ります。

・ P.41 右段「パターン・エディットの基本操作」の表を一部変更

[SHIFT] + [F1 (Extract Rhythm)] (エクストラクト・リズム)	リズム・セットを分割します。
[SHIFT] + [F2 (Velocity Duration)] (チェンジ・ベロシティー / チェンジ・デュレーション)	音の強さ / 長さを変更します。 (P.42 ~ 43) ベロシティーとデュレーションのどちらを変更するかをサブ・ウィンドウで選ぶようにしました。それぞれの機能は取扱説明書の記載とおりです。

特定のコントロール・チェンジ情報のコピー／消去

パターン・コピーとイレースで、CC (コントロール・チェンジ) の範囲を指定して実行できるようにしました。

・ P.42 「パターン・コピー」「イレース」の表に追加

パラメーター	設定値	説明
Min	CC#0 ~	コピー／消去するコントロール・チェンジ・メッセージ 指定した範囲に含まれるメッセージが消去されます。 Event に「CC」を選んだときのみ設定できます。
Max	CC#127	

サンプル・リスト／ファイル・ユーティリティーの追加機能

サンプル・リスト (P.113)、ファイル・ユーティリティー (P.132) で、複数のサンプル／ファイルを同時に選択できるようにしました。



・ P.113 右段「サンプルの選択 (サンプル・リスト) 」ファンクション・ボタンの表を以下のように変更

[F1 (Preset)]	プリセット・サンプルから選択します。
[F2 (User)]	ユーザー・エリアのサンプルから選択します。
[F3 (Card)]	メモリー・カードのサンプルから選択します。
[F4 (Mark Clear)]	サンプルのチェック・マークを外します。
[F5 (Mark Set)]	サンプルにチェック・マークを付けます。
[F6 (Select)]	選択したサンプルのエディット画面になります。
[SHIFT] + [F1 (Delete Sample)]	チェック・マークの付いたサンプルをファイルごと完全に削除します。(*1)
[SHIFT] + [F2 (Erase)]	チェック・マークの付いたサンプルをメモリー上から消去します。(ファイルは削除されません。)(*1)
[SHIFT] + [F3 (Load)]	チェック・マークの付いたサンプルをメモリー上に呼び出します。(*1)
[SHIFT] + [F4 (Mark Clear All)]	すべてのサンプルのチェック・マークを外します。
[SHIFT] + [F5 (Mark Set All)]	すべてのサンプルにチェック・マークを付けます。
[SHIFT] + [F6 (Create Rhythm)]	チェック・マークの付いたサンプルにクリエイト・リズム (P.117) を実行します。

*1 : チェック・マークが 1 つも付けられていない場合は、カーソルで選択されたサンプルについて実行します。

・ P.132 「ファイル・ユーティリティー」左段
手順 4 の次の表を以下のように変更

[F3 (Card Format)]	メモリー・カードを初期化します。
[F4 (Mark Clear)]	ファイルのチェック・マークを外します。
[F5 (Mark Set)]	ファイルにチェック・マークを付けます。
[F6 (Move)]	チェック・マークの付いたファイルを別のフォルダに移動させます。(*2)
[SHIFT] + [F3 (Delete)]	チェック・マークの付いたファイルを削除します。(*2)
[SHIFT] + [F4 (Mark Clear All)]	フォルダ内のすべてのファイルのチェック・マークを外します。
[SHIFT] + [F5 (Mark Set All)]	フォルダ内のすべてのファイルにチェック・マークを付けます。
[SHIFT] + [F6 (Copy)]	チェック・マークの付いたファイルを別のフォルダにコピーします。(*2)

*2 : チェック・マークが 1 つも付けられていない場合は、カーソルで選択されたファイルについて実行します。

サンプル・リストからのクリエイト・リズム

チョップで分割したサンプルにしか実行できなかったクリエイト・リズム (P.117) を、サンプル・リストから選択することで、任意のサンプルを組み合わせて実行できるようにしました。

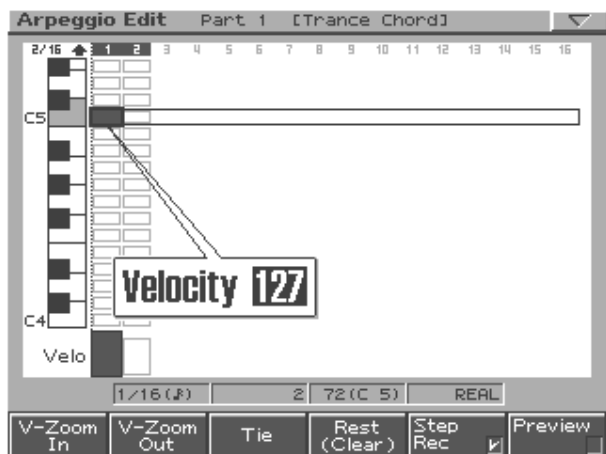
1. サンプル・リストで、リズム・トーンにしたいサンプルにチェック・マークを付けます。
サンプルは 16 個まで選択できます。17 個以上選択した場合、番号の若いほうから 16 個のサンプルを使用してリズム・セットが作られます。
2. [SHIFT] を押しながら [F6 (Create Rhythm)] を押します。
クリエイト・リズムを実行するかどうか確認するメッセージが表示されます。
3. 実行するときは [F6 (Execute)] を押します。
リズム・セット・ネームの入力画面が表示されます。
4. リズム・セットに名前を付けて保存します。
「パッチ / リズム・セットの保存」(P.75) をご覧ください。
クリエイト・リズムを中止するときは、[F5 (Cancel)] を押すと元の画面に戻ります。

リズム・セットを保存すると、今作成したリズム・セットをカレント・パートに割り当てるかどうか確認するメッセージが表示されます。

5. 割り当ての場合は [F6 (Execute)] を押します。
作成したリズム・セットがカレント・パートに割り当てられ、リズム・エディット (P.68) 画面が表示されます。
6. 割り当てない場合は [F5 (Cancel)] を押します。
サンプル・エディット画面に戻ります。

アルペジオ・スタイルのステップ・レコーディング機能追加

アルペジオ・スタイルを作成する際に、ノートを 1 音ずつ入力するステップ・レコーディングが行えるようにしました。



- P.29 右段「アルペジオ・スタイルの作成」の表に追加

[SHIFT] + [F1 (V-Zoom In)]	アルペジオ・スタイル入力画面を拡大表示します。
[SHIFT] + [F2 (V-Zoom Out)]	アルペジオ・スタイル入力画面を縮小表示します。
[SHIFT] + [F3 (Tie)]	カーソル位置にタイを入力して、次のステップに進みます。
[SHIFT] + [F4 (Rest (Clear))]	カーソル位置のステップにあるデータをすべて消します。
[SHIFT] + [F5 (Step Rec)]	押してチェック・マークを付けると、データを 1 音ずつ入力 / エディットできます。 このとき、[SHIFT] がロックされた状態になります。

パッチ・エディットの追加機能

パッチ / リズム・セットのエディット時に [ENTER] を押すと、現在選択されているパラメーターに設定できる値の一覧を表示するようにしました。

V-LINK 対応ビデオ機器の追加 (Edirol V-4)

V-LINK 対応ビデオ機器として、Edirol V-4 に対応しました。

MC-909 と Edirol V-4 の組み合わせでは、

- MC-909 から V-4 の制御に必要な設定を行う (遠隔設定) ことができます。
- MC-909 のシーケンサーで V-4 の映像切替をコントロールし、音楽と同期した映像表現を行うことができます。
- MC-909 のペロシティー・パッドで、V-4 のインプット・セクターを制御し、さまざまなソース機器からの映像を切り替えることができます。
- MC-909 のつまみで、切替エフェクト (オーバーラップやワイプなど) の時間設定を行うことができます。

MC-909 と Edirol V-4 で V-LINK を楽しむためには、市販の MIDI ケーブルが必要です。

Edirol V-4 対応に伴い、パラメーターを追加しました。

- P.137 「V-LINK の設定 (V-LINK セットアップ)」の表に追加、および変更 (VFX Ctrl VFX1 Ctrl)

パラメーター	設定値	説明
VFX1 Ctrl	OFF, CC1,	ビデオ・エフェクトをコントロールするコントロール・チェンジ・ナンバー
VFX2 Ctrl	CC5, CC7,	
VFX3 Ctrl	CC10, CC11,	
VFX4 Ctrl	CC71 ~ 74,	
Fade Ctrl	CC91 ~ 93, Channel	アウトプット・フェードをコントロールするコントロール・チェンジ・ナンバー
	Aftertouch	

VFX2 ~ 4 は Edirol DV-7PR では対応していません。

その他の追加機能

- 1 パターンあたりの最大記憶音数を、約 12,000 音から約 30,000 音へと拡張しました。
- ミキサー画面の上部に、パターンの現在の再生位置を示すバーを追加しました。
- マスタリング画面にレベル・メーターを追加しました。
- チョップで分割されたサンプルは、基本的に連続したサンプル番号で保存されるようになりました。
- クリエイト・リズム実行時の保存先として、ユーザー・エリアとメモリー・カードを選べるようにしました。
- システム・メニューの [F6 (System Info)] - [F2 (Memory Info)] の画面に、ユーザー・エリアとメモリー・カードの使用状況表示を追加しました。
- ファイル・ユーティリティ画面のメモリー使用状況表示を見やすく変更しました。
- サンプル・リストの「Size」を、サンプル数表記から KB (キロバイト) 表記に変更しました。

サンプルを記憶する場所について

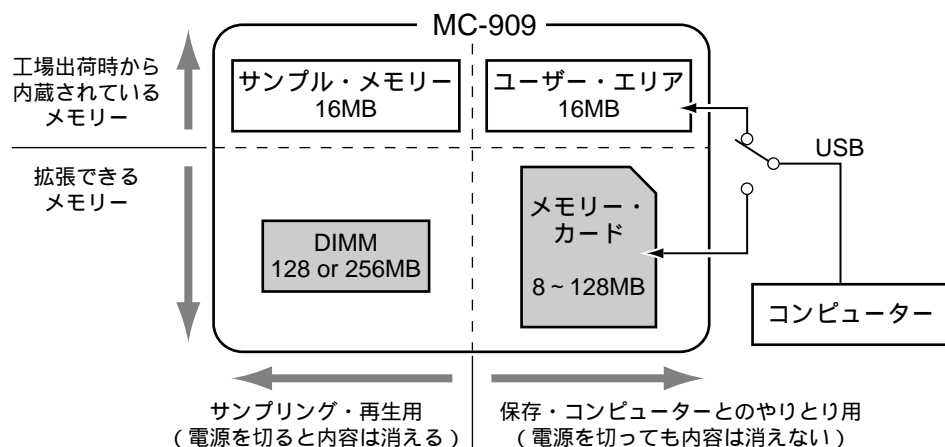
MC-909 は、電源を切ると内容が消えるサンプル・メモリとDIMM、そして、電源を切っても内容が消えないユーザー・エリアとメモリー・カードの、2種類のメモリーを扱うことができます。

工場出荷時には、16MB のサンプル・メモリと16MB のユーザー・エリアを持っています。サンプル・メモリは、DIMM を追加することにより最大 272MB (256MB の DIMM 使用時) まで拡張できます。

ユーザー・エリアは16MBまで記憶することができますが、メモリー・カードを使うとユーザー・エリアとは別に最大128MBまで記憶することができます。

MC-909 では、サンプリングをしたり、サンプルを使ったパッチを鳴らす場合は、サンプルをサンプル・メモリ (DIMM を含む) に読み込みます。しかし、サンプル・メモリやDIMM は電源を切るとその内容が消えてしまうため、サンプルを記憶するには、ライト操作を行ってユーザー・エリアやメモリー・カードに保存する必要があります。

また、コンピューターやMC-909のユーティリティー・メニューを使って管理できるのは、ユーザー・エリアとメモリー・カードです。サンプル・メモリとDIMMは管理できません。



このため、MC-909 で128MB以上のサンプルを鳴らすことはできますが、128MB以上のサンプルを保存することはできませんので、ご注意ください。